



はじめに

「みんなでまちづくりをすすめるためのみちしるべ」は、協働のまちづくりによって、豊明市ではどんなまちの姿を目指し、わたしたちはどのように関わっていくのかについて豊明市の課題等を取り上げながら具体的に解説したものです。

協働のまちづくりが目指される背景には、介護、子育て、防犯・防災、地域美化等、個人だけでも行政だけでも解決するのが難しい問題が増えてくる中で、行政だけに任せるのではなく、地域のさまざまな人や組織が、ともに話し合い、力を出し合って取り組んでいく必要が出てきたことがあげられます。

「なんだか大変な時代になってきた。」と感じる方もあるかもしれません。しかし、かつての地域社会には、自分でできることは自分で、できない時には家族や地域で支えあう助けあいの力がありました。また、今でも豊明市では、防犯パトロールやごみの減量等、身近な課題に取り組む地域活動が熱心に行われています。さらに、青少年問題、外国人と共に暮らす地域づくり等、新しい社会課題にNPO等市民活動団体が活躍する場面も増えてきています。

協働のまちづくりとは、豊明市に根づいているこうした「市民がまちづくりを担っている力」を活かしていくことなのです。

本書では、そうした新しい仕組みをつくっていくために、わたしたちはどう関わっていくとよいのか、協働をどんな仕組みで進めるのかを描いています。

行政は、今後「公共サービスを提供する」という役割から、「多様な主体がより効果的な公共サービスが提供できるように、条件を整備する」役割へと進化させていくこととなります。同時に、市民一人ひとりにも、まちをよくしていくために、自ら何ができるかを考え、できることから実行していくことが求められます。また、地縁団体、NPO等市民活動団体、企業、大学・学校、公益法人等、地域のさまざまな組織も、各々の特性を活かし、責任と役割を担っていくことが期待されています。

わたしたちみんなが豊明市のまちづくりの主役なのです。本書をみちしるべとして、みんなで協働のまちづくりを進めていきましょう。